

GCS 年次大会における小松昭夫理事長講演

時間 2008年11月7日 11時30～12時
場所 GCSインターナショナル本部



みなさまこんにちは。みなさまは今日、チェンジを掲げた米国の新しい大統領の誕生という、記念すべきときを迎えておられます。止揚(アウフヘーベン)を図り、ポスト近代から次のネクスト近代を創り出す、そういう人類史的役割を果たすのが日本列島と、その対岸の朝鮮半島であると確信をしています。

来年は安重根義士が伊藤博文公を中国のハルピンで暗殺し、再来年は処刑をされて100周年に当たります。日本の中でも尊敬する人物は誰だといったときに安重根を挙げる識者はたくさんいます。こ

の安重根義士、そして伊藤博文公、そしてその原因となった明成皇后の死、その三人の尊厳死と、南北の離散家族、日本と韓国の拉致被害者、日本から北朝鮮に渡られた日本人妻の方々の未帰還問題、この中から私は次の新しい時代が生まれると確信しております。

10月6日から11日の間に京都の立命館大学、京都造形大学、広島市の平和資料館、そして私たちの人間自然科学研究所におきまして、第6回の世界平和大会を開催しました。

ここに安重根義士記念館の金鎬逸(キムホイル)館長様に来ていただきまして、日本の中で一番厳しい状況を迎えている島根県において講演をいただきました。そして、「竹島の日」でいろいろと大きな問題を提供しています県民に大きな感銘を与えました。また広島のお寺の方から安重根義士の遺墨のうち最も高い精神性があるといわれています「獨立」という書を、館長様に見ていただくことができました。

皆様ご承知のように安重根義士は東洋平和論を書いている途中で亡くなっています。これまでの私たちの活動の背景をこれから、皆さんにプレゼンテーションでご覧をいただきたいと思います。

最後に海南島に眠っている強制労働の遺骨をぜひ皆様にご覧いただきまして、これを新しい平和を築くためのプロジェクトにいたしたいと思っています。このことはすでに趙正源(チョンジョンウォン)総裁様にもお伝えしていますので、皆様の絶大なるご支援をお願いします、ありがとうございました。



(英語版パワーポイント上映)



参加者の皆さん



趙正源 GCS 総裁との面会
「獨立」の書を写した写真 研究所パワーポイントが渡された



世界各国より約 1000 人
参加のパーティー



11月6日に開かれた、安應模(アンウンモ)安重根義士崇慕会・新理事長、金鎬逸・記念館館長の皆様、金顕哲顧問との面会。世界から見た北朝鮮情勢について意見交換した。



11月6日 慶熙大学校での講演



学生から積極的な質問があった



東亜日報
11月8日の報道